

中国の核果類事情(モモ、ネクタリン)

[米国農務省GAINレポート 2024年7月5日](#)

これは米国農務省海外農業局の北京事務所(中国)が作成した「核果類年次報告書」の要旨及びモモ・ネクタリンの項(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

このレポートは、モモ/ネクタリンとサクランボを対象としている。中国北部では干ばつが続いているにもかかわらず、2024/25年度のモモ/ネクタリンの生産量は微増の1,760万トンと予想される。2024/25年度のサクランボの生産量は、面積の拡大と着果量の増加により、9%増の85万トンと推定される。経済状況が低迷する中、果実の消費量の伸びは全般的に弱いものの、サクランボの輸入は、主に輸出国による販促活動の強化により、増加する可能性が高いと見られる。

生産

当事務所は、中国の2024/25販売年度(1月～12月。以下「年度」)のモモ/ネクタリンの生産量を前年比微増の1,760万トンと推定する。深刻な暑さと干ばつは5月以降、主要なモモ/ネクタリン産地である山東省、河南省等を含む中国北部の一部に影響を及ぼしている。6月上旬にモモ/ネクタリンの収穫が始まったばかりの山東省の果樹生産者らによると、水不足は果実の肥大に悪影響を与えるため、この天候パターンはモモ/ネクタリンの生産を減少させると見られる。しかし、中国北部の一部の地域で予想される減収は、天候異常が報告されていない他のモモ/ネクタリン産地の豊作によって補完されると見込まれる。モモ/ネクタリンは、北西部の省(陝西省、山西省等)と中国南部(四川省、雲南省、貴州省及び安徽省等)で栽培されている。上海市、江蘇省、浙江省は、量は少ないものの価値の高い水蜜桃を生産している。

モモ/ネクタリンの栽培面積は、主に河北省、山東省等の北部平原地域で、2024/25年度も減少を続けることと推定される。市場収益性の悪化により、一部の生産者はモモの生産をサクランボ等の収益性の高い作物に転換した。また、食料安全保障戦略の下での農地利用に関する政府の政策強化により、果樹園のある土地が「基本農地」である場合、果樹生産者はモモの生産をやめて穀物の生産を優先することが義務付けられている(詳細については、GAINレポート[CH2023-0103](#)の政策の項参照)。

サクランボ等の価値の高い果実と比較して、モモ/ネクタリンの温室栽培はかなり限られているが、一部の生産者はモモ/ネクタリンを市場価格が高い早い時期に収穫することを意図しており、その面積は徐々に増加している。国内のモモの出荷シーズンは5月中旬に始まり、10月下旬に終わるが、温室栽培のモモ/ネクタリンは4月から出回る。

果樹生産者は、ますます要求が厳しくなる消費者を満足させるために、様々なモモ/ネクタリンから選択できるよう、果汁が多いものや果肉が固いもの、果肉が白、赤、黄色のもの、果実が円形のものや扁平なもの等、栽培するモモ/ネクタリン品種を増やしている。最近では、ボタンドーナツ(扁平)ネクタリンやミニネクタリン等、いくつかの品種が開発され、市場に投入された。業界関係者らは、従来型のモモの市場シェアは今後も低下すると予測している。当事務所は、現地調査中に、消費者がネクタリンの食べやすさを好むため、山東省の多くの生産者がモモをネクタリンに転換したことを知った。

業界の報告書等によると、中国のモモ産業は、平均0.7ヘクタールの農地を持つ多数の小規模生産者で構成されており、彼らが果樹園に複数のモモ/ネクタリン品種を植えることが多いことも示されている。この生産方式では、均一な品質のモモ/ネクタリンを生産することはほとんどできない。この果実は傷みやすいことから、選別等の収穫後の処理は一般的ではない。さらに、供給量が豊富で価値の低い果実と見なされているモモ/ネクタリンには、コールドチェーン輸送は通常適用されない。

中国のモモの生産が直面している最大の課題は、高い人件費と労働力の高齢化である。最近の調査によると、モモ生産者は47～70歳である。さらに、当事務所が6月上旬の現地調査で知ったところによれば、山東省でモモを袋詰めするための人件費は1日あたり200人民元(27.8ドル)に達している。

価格

モモの出荷シーズンは5月下旬に始まった。早生のモモ・ネクタリンは、果実の生育期間が短いためあまり美味しくないが、7月に大量に入荷する中生品種よりも一般的に高値で販売される。山東省最大のモモ/ネク

タリン産地である蒙陰^{モンイン}県での現地調査中に当事務所が知ったところによれば、6月上旬の黄肉のネクタリンの農場出荷価格は16人民元(2.2ドル)で、1年前と変わらなかった。しかし、地元の果実生産者らは、今年は全般的に消費が低迷していることから、大量のモモが市場に入荷し始めると、モモ/ネクタリンの価格が前年の水準を下回ると予想している。一般的に、早生のモモはより高い価格を得る可能性があり、黄肉のモモやドーナツピーチ(扁平モモ)の価格は従来型のモモ(特殊な水蜜桃を除く)よりも高い。

消費

モモ/ネクタリンの消費量は、特に7月と8月の出荷の最盛期には十分な供給があるため横ばいである。停滞した経済は、他の果実やメロンの選択肢が多くある場合、消費者のモモ/ネクタリンの購入意欲にさらに影響を与えるであろう。果実業者らは、消費者が支出に慎重であるため、今年は消費の低下がより明白であると指摘している。一方、有機モモや輸入モモ等の高品質のモモは、依然としてアッパーミドル階級の消費者を魅了している。さらに、黄肉のドーナツピーチやミニネクタリン等、一部の特殊な品種の需要は依然として強い。一般的に、中国北部の消費者は果肉の固いモモ/ネクタリンを好み、南部の消費者は果汁の多いモモを好む。また、すべての消費者は、糖度の高いモモ/ネクタリンを好む。ほとんどのモモ/ネクタリンは生果で消費される。モモの約20%が缶詰に加工され、果汁、乾燥/保存(瓶・缶詰等)果実、ワイン飲料が続く。中国は、米国と日本へのモモ缶詰の伝統的な輸出国である。

貿易

輸入

2024/25年度(1月～12月)のモモ/ネクタリンの輸入は、回復すると予測される。中国がチリ産のモモの輸入を許可したため、季節外れのモモ/ネクタリンの需要がさらに増加すると予想される。モモ/ネクタリンの輸入は、主に1月から4月の間にチリ、オーストラリアを主体とする南半球の生産国から供給される。供給シーズンが中国と重なる米国産ネクタリンの輸入は依然として限られている。

輸出

果実輸出業者らは、ベトナム、キルギス、ロシア等の近隣市場での需要が弱いいため、中国の2024/25年度のモモ/ネクタリンの輸出はさらに減少する可能性が高いと予測している。中国は主に5月から9月の間にモモ/ネクタリンを輸出する。

表2 中国のモモ/ネクタリンの生産需給統計

モモ/ネクタリン(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	848,000	848,000	840,000	840,000	0	830,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	17,000,000	17,000,000	17,500,000	17,500,000	0	17,600,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	17,000,000	17,000,000	17,500,000	17,500,000	0	17,600,000
輸入量(トン)	44,500	44,500	40,000	42,500	0	54,000
総供給量(トン)	17,044,500	17,044,500	17,540,000	17,542,500	0	17,654,000
生鮮国内消費量(トン)	16,981,200	16,981,500	17,480,000	17,482,500	0	17,599,000
輸出量(トン)	63,300	63,000	60,000	60,000	0	55,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	17,044,500	17,044,500	17,540,000	17,542,500	0	17,654,000